



稲穂

豊崎小学校 校長室通信

令和4年 9月27日

第6号 文責 久保 亨

前期終了、後期がスタート！

夏休みが終わって、まだ1か月ほどしかたっていませんが、豊崎小学校では、全校で豊崎郷土かるたをしたり、6年生は中学校との合同ダンス教室やいこい苑の皆さんと福祉についての学習をしたり、5年生は新聞活用出前講座で学んだり、3・4年生は社会科学見学(卸売市場・水産会館・食品工場)や校外学習(瑞豊館・普賢院・蒼前神社の見学)に出かけたり、2年生は栄養士さんとの食に関する学習や町探検をしたりと、子どもたちは様々な学習活動に元気いっぱい取り組み、充実した時間を過ごしています。(※もちろん、1年生も頑張っています！)

9月22日に行われた前期終業式では、2年生代表の濱田日菜さん、4年生代表の市川空龍さん、6年生代表の嶋森紗奈さんが、前期の活動を振り返って、成果と課題を述べました。どの児童の発表からも、これまでの頑張り、「もっと成長したい！」という気持ちが伝わってきました。



全校で豊崎郷土かるたを楽しみました！

9月26日に行われた後期始業式では、1年生代表の長森珠優さん、3年生代表の中村 蓮さん、5年生代表の赤坂心愛さんが、後期に頑張りたいことを述べました。目標が達成できるよう、サポートしていきたいと思えます。

さて、10月8日には、いよいよ学習発表会が行われます。すでに練習は佳境を迎えており、子どもたちの意気込みが伝わってきています。ぜひ、学校へおいでいただき、子どもたちが精いっぱい頑張る姿をご覧ください。

「感動を与えたい!?」 ～発表の目的～

学習発表会といえば、以前、ある学校で、「お客さんに感動を与えられるような劇にしよう」というようなめあてを立てている学年がありました。素晴らしい劇にしたい、という思いはよくわかりますし、大変よいことだとは思いますが、私は「与える」という表現がどうしても気になってしまいました。

最近、プロのアスリートはもちろん、小学生もそのような発言をしているのを見かけます。(大人の真似をしているのだと思います)。しかし、感動は、「させる」ものでしょうか？私は、「する」ものであって、「させる」ものではないと思えます。ましてや、「与える」という言い方はどうなのでしょう。

前期終業式では、子どもたちに、人に感動を「与える」ためではなく、純粋に目の前の課題を解決するため、昨日までの自分に勝つために頑張ることの大切さをお話しました。